

エネルギー環境 教育のひろば

北海道エネルギー
環境教育研究委員会
組織誌発刊
2008.01.24発行
第11号



二月二十三日(土)「平成十九年度エネルギー環境教育研究シンポジウム」がホテルライフォート札幌で開催された。

シンポジウム開催

今回のシンポジウムは、谷委員長の後、研究安全股について各支部、各支部から発表があった。また、来年度以降の活動と中期展望について、吉谷副委員長からあり、今後の見通しが示された。その後、二つの講演

が行われ、休憩時には自作教材の展示交流もはかられた。



施設見学ガイドマップ

調査部会では施設見学ガイドマップの作成を行っている。今回のマップは、北海道大学のアイスシュルター、J.A.びばい「雪蔵工房」の概要が中心となっている。北大の施設ではアイスシュルターの原理やその活用方法などの研究が行われている。また、「雪蔵工房」は雪エネルギーを活用して、玄米を5℃で貯蔵する国内最大の施設ということである。どちらの施設も北海道の自然を利用した施設で小学生や中学生がエネルギー環境施設の見学に参考となるものである。

今後五カ年の、本委員会の活動展望が示されたが、新学習指導要領を見据えて検討事項が新たに増えてきた。総合的な学習の時間の縮小などがある。また、各教科のカリキュラム作りも同様である。ただ、エネルギー環境問題はどの教科でも重要な存在になるため、ますます教科、学校種を飛び越え、その連携の必要性が出てくると思われる。さて、今後各支部の活動は、



独立して行うこととなるが、さしあたって、札幌においては平成二十一年度の全道大会は、

教育学会札幌大会も予定されており、研究発表とともに運営面での協力体制も考えていかなければならない。さらに、平成二十三年度には創立一〇周年となり、記念大会も予定されている。これらの活動を、新たに組織される三部会を中心として運営していくこととなるが、今後会員数の増加とともに、即戦力となる人材の発掘がますます必要となってくるであろう。

札幌市立琴似中学校 杉山先生実践発表

三月二十二・二十三日の両日パナソニックセンター東京でフェスタが開催された。日常生活に欠かせない「エネルギー」について、展示、実験、児童生徒の学習成果などを通して体験する内容で行われた。その中で、エネルギー教育実践校発表会が行われ、エネルギー教育実践校16校の中から、小・中・高等学校各三校、エネルギー教育実践シニア校三校が選ばれ、札幌市立琴似中学校の杉山先生が「息の長い持続可能な活動の定着を目指して」というタイトルで発表を行った。同中学校は平成一五年に実践校となり、現在シニア校として活動を行っており、一五分間という短い時間であったが、北海道の実践校としてその現状が発表された。

総会案内

平成二十年年度の本委員会の総会が左記の日程で行われます。なお、詳細は後日お知らせいたします。

十三時から

於：ホテルライフォート札幌
是非とも多くの先生方の参加をお待ち申し上げます。



北海道エネルギー
環境教育研究委員会
連絡先
北海道エナジートーク21
札幌市中央区北1条西5丁目
北1条三井ビル2F
TEL-011(251)9710
FAX-011(251)3974
